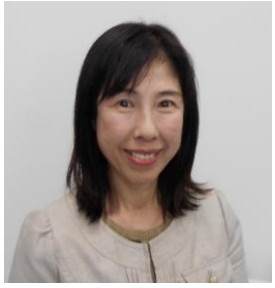
日本精神保健社会学会
THE JAPAN ASSOCIATION OF
MENTAL HEALTH SOCIOLOGY
＜日本学術会議協力学術研究団体No.1001＞
ニュースレター第60号
発行人：宗像恒次　編集人：山本美奈子
平成29年6月1日
事務局：栃木県宇都宮市豊郷台１－１
帝京大学宇都宮キャンパス
滝澤武研究室内
TEL＆FAX 028－627－7188

第23回日本精神保健社会学会学術大会に向けて

第23回学術大会実行委員長　谷口　清弥（四條畷学園大学　看護学部）



今年も、第23回日本精神保健社会学会学術大会を筑波大学東京キャンパスにおいて開催いたします。今回の大会テーマ「市民のレジリエンスを高める社会－身体の芯があたたまる関係を築く－」は、ストレス環境にあっても、自分を高め、そして人とのあたたかい関係の築き方を今一度考えたいとの思いから発信しました。

先端科学技術のおかげで、私たちの社会生活は便利になりました。それはワクワクする経験ももたらしてくれますが、色々なことが経験したことのないスピードで進み、戸惑いも否めません。SNSの普及でコミュニケーションの在り方も大きく変わりました。そして、メンタルヘルス不調者は増加の一途をたどっています。そこで、今回のキーワードを「レジリエンス」としました。「レジリエンス」は、精神的回復力、逆境力、折れない心の力、などと訳され、近年、いかにレジリエンスを高めるかということが注目されています。私達の日常生活においては、人間関係や仕事上のストレス、さらには予期しないような事故、災害など様々な出来事が存在します。同じ精神的ストレスを受けても、不安にさいなまれて生きる気力が持てない人達がいる一方で、逆境を乗り越え前向きに生きる人達もいます。同じ体験をしながら、その後の人生が大きく違うのは何故でしょうか？この違いが「レジリエンス」にあります。

宗像恒次学会長は、「レジリエンス（精神的回復力）は、逆境（ストレス）を克服する経験によって強化される、穏やかさ、寛容さ、明るさ、自信、優しさ、勇気などの環境への許容力からなる」と述べています。避けられない逆境ならば、逆境を糧にレジリエンスを

高めていきたいものです。そこから得られる、ほっこりした、身体の芯からあたたまる人間関係は、私たちを揺るぎない安心感で包み込み、自分らしく目標や夢に向かわせることでしょう。レジリエンスを高め、共感し合うメンタルヘルス社会の実現に向けて、有意義な一日となるよう準備していきたいと考えております。多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

第 23 回日本精神保健社会学会学術大会・総会のお知らせ（第 1 報）

●開催日：平成 29 年 11 月 23 日（木）祝日

●会　場：筑波大学東京キャンパス

●大会テーマ：市民のレジリエンスを高める社会－身体の芯があたたまる関係を築く－

第 1 部　口頭発表

第 2 部　シンポジウム（シンポジストは交渉中）

★口頭発表の演題募集★

発表希望者は、演題名を **9 月 22 日（金）**までに事務局へお申込みください。抄録については、**10 月 20 日（金）**までに事務局にご提出ください（抄録は、下記のフォーマットに沿って作成してください）。

申込み提出先：E-mail:info@jamhs.org または FAX:028-627-7188

口頭発表は、パワーポイントを使用したパソコンでの発表を原則とします。学会事務局にてパソコンを準備しますので、当日電子媒体でデータをご持参ください。

抄録のフォーマット（A4 サイズ）

上下 35mm

タイトル（MS ゴシック体 11 ポイント）

（1 行あける）

氏名（所属）明朝体 10.5 ポイント　※右寄せ

東京　花子（○○大学）

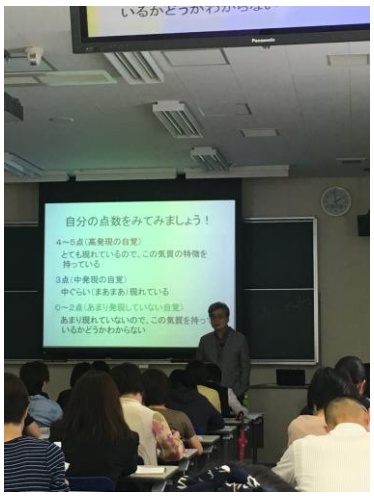
左右 30mm

左右 30mm

本文は明朝体 10.5 ポイント

平成 28 年度　「研修会」報告

滝澤　武（帝京大学）



近年、発達しょうがいといわれる子どもが増加してきています。子どもたちに対する理解と対応が重要な課題となっていますが、発達しょうがいに対して適切な対応ができる支援者が限られています。そこで、この課題解決のために平成 28 年 10 月 1 日（日）、帝京大学宇都宮キャンパスにおいて、認定発達しょうがいアドバイザー研修会を開催しました（本学会と NPO 法人生涯発達研究所・ヘルスカウンセリング学会・筑波大学発 SDS 株式会社情報認知行動療法研究所後援）。

宗像恒次学会長（筑波大学名誉教授）を講師に「発達しょうがい児のあるがままの心の育て方」というテーマで、13 時から 17 時までの 4 時間で実施されました。主な内容は、発達しょうがいとは何か、発達しょうがいのアセスメントー自閉スペクトラム症、ADH 症、知的発達症、限定性学習症などー、発達しょうがいの脳科学、ADH 気質と自閉スペクトラム気質が陥りやすいストレス症、発達しょうがい児のあるがままの心の育て方などでした。

60 人の方が参加しセミナーの振返りシートには、「目の表情、声の表情で脳が委縮することがわかりました。これまでの生活を振返り、心あたりがたくさんありました」、「今後の生活や指導にいかしていきたいです」、「発達しょうがいと言われている子どもたちを認め、あるがままで受け入れたいと思っていますが、通常学級での理解はまだです」、「思っていた内容とは異なっていましたが、気質についての話など興味深く感じるものもありました。対処方法や対応の仕方も教えていただいてよかった」など参加者の皆様が、さまざまな学びを経験できた記述が多くみられました。この研修会は、今後開催される「認定発達しょうがい療育士初級セミナー」へ続くもので、さらに専門家として成長していくためのはじめのステップとして、位置付けられるものです。今後、より多くの方にご参加いただけるよう、各地域での開催体制を構築していきたいと考えています。

平成29年度　講演会・研修会の案内

昨年度の研修会が好評につき、今年度も講演会・研修会を行います。会員の皆様のご参加を心よりお待ちしています（詳細は、ホームページをご参照ください)。

1．NPO法人生涯発達研究所発足三周年記念講演会

日時：2017年 6月 13日(火)17：15～19：30

場所：壬生町城址公園中ホール（栃木県下都賀郡壬生町本丸1丁目 8番33号）

2. 認定発達しょうがい療育士初級セミナー

日時：2017年 7月 8日(土)、9(日)10：00～11：00

場所：壬生町保健福祉センター（栃木県下都賀郡壬生町大字壬生甲 3843-1）

（日本精神保健社会学会、ヘルスカウンセリング学会、筑波大学発ベンチャー株式会社SDS情動認知行動療法研究所後援）

新理事就任あいさつ

今年度、新たに1名の理事就任が決定しました。

中嶋　一恵（筑波大学発ベンチャー株式会社SDS情動認知行動療法研究所）

日本精神保健社会学会は、社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学など多方面から現在の社会的にニーズの高いメンタルヘルスの問題に対し、理論と方法論を研究し続け、社会貢献をされてきた学会だと認識しております。

私自身、看護や教育の場での経験から、メンタルヘルスの問題の重要性を認識し、ヘルスカウンセリング学を学び始めました。大学院では、社会心理学・社会学などをも学び、社会調査研究に従事するなかで、本学会に関心を持っていました。現在の職場では、メンタルヘルスの問題を抱えた多くの人とのかかわりをもたせていただき、その中でレジリエンス（環境に対する許容力）を高めて人と人との感情の交流を取り戻し、あるがままの自己に気づいて、自分の歩む道を見いだしていく過程を共有させていただいています。その中で感じることは、市民の皆様が自己成長・自己治療の力をつける社会づくりの必要性です。日々の生活の中で、ストレスや問題は大なり小なり生じます。その問題を、蓄積することなくその時々でマネジメントしていく力が求められているのではないかと思います。その人らしく幸せに過ごすことができるように…と思っています。

今後は、本学会での活動を通して、皆様とともに学び、成長し、歩むことのできる時間の一瞬一瞬を大切にし、感謝の気持ちを忘れず、研鑽を積んで参りたいと思います。初め

てのことも多く、ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、ご指導をいただきながら私らしく進んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

理事たちの現場　Vol.15

新行内　勝善（東京メンタルヘルス株式会社）

今回、貴重な誌面をいただき、私自身の活動など紹介させていただくことになりました、ありがとうございます。簡単に、ご紹介します。現在、東京メンタルヘルス株式会社に所属しております。東京メンタルヘルスでは、心理カウンセラー、カウンセリング講座講師、職場のメンタルヘルス研修講師、心の病からの職場復帰を支援するワーカー、スクールソーシャルワーカーなどを担当しております。また、他のカウンセラーたちが、さらに活躍していけるように新たな仕事を開拓したり、カウンセラーの育成にも取組んでおります。一方、姉妹団体である NPO 法人東京メンタルヘルス・スクエアの理事も務めております。そこでは、例えば、経済的事情で塾に通えない子どもたちに対して、無料の高校受験対策講座の場を提供する活動などもしております。その他の活動として、某教育センターにて、家庭や発達面に困難さがあり学校生活でつまずいてしまっている子どもたちのプレイセラピーを行ったり、保護者の相談にのるなどして子どもたちや家庭が力をつけていけるようにサポートをしております。また、森林セラピスト®として、森林浴効果の認められた森林セラピー®基地で、森林散策や森林安息を中心としたメニューを組み、心と体の癒しやリフレッシュを得るためのプログラム提供もしております。

ところで先日、「新行内さんの専門は何ですか？」と聞かれ、答えに窮してしまいました。＜ひきこもりを専門に…＞とか、＜ハラスメント対応を専門に…＞とか、何かそう言えるものがあるといいなとは思いますが、「果たして私の専門は？？」などと自問自答しております。そこで、私の現在の活動のキーワードを拾い集めていくと、「家庭環境にハンディがあり能力を発揮しきれていない子どもたちとその家庭」への支援や、「いじめ、差別、ハラスメントなどで苦しまれている方」への支援。そして、「自然や木の良さなど、価値を見失われたものの中にある、本物が持つ良さを再発見してもらう活動」といったところでしょうか。こういったキーワードの中、心理カウンセラーとして、あるいはソーシャルワーカーとして、人と人のつながりを通して、人々の心の力になれるように目指して、日々活動を続けております。

掲載論文における誤植について

「メンタルヘルスの社会学」年報編集委員会

委員長　窪田　辰政

「メンタルヘルスの社会学」Vol.22 に掲載された下記論文に誤りがありましたので、ここに訂正いたします。誤植訂正した新しいシールを同封しましたので、既に配布済みの雑誌該当ページに貼付いただけますよう、よろしくお願いいたします。

掲載：メンタルヘルスの社会学 Vol.22　21～30 ページ　（2016 年 10 月発行）

題目：精神科長期入院者への退院支援活動における支援者要因の検討

　　：ソーシャルワーカーへの調査をもとに

著者：宮脇英子、清水由香、岡田進一

訂正箇所：21 ページ Abstract および Key words

21 ページ Abstract

（誤）The study focused on practitioner’s tactor factor related to discharge planning practice

（正）The study focused on practitioner’s factor related to discharge planning practice

21 ページ Key words

（誤）practitioner’s tactor factor factor

（正）practitioner’s factor

日本精神保健社会学会入会のご案内

1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきています。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見いだし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。

様々な分野の方々が、入会下さるよう期待しています。

2. 指針

①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会学的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。

②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。

③国際的にも仲間づくりをすすめていく。

④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。

⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。

⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

3. 入会申し込み方法

送付先：〒320-8551　栃木県宇都宮市豊郷台１－１　帝京大学宇都宮キャンパス　滝澤武研究室内

日本精神保健社会学会事務局　　TEL　028－627－7188　FAX．028－627－7188、E-mail:info@jamhs.org

入会金：5,000 円

会　費：通常会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員一口 10,000 円（一口以上）、機関会員 20,000 円

送金先：郵便振替　００１７０－６－６１３０３６　　加入者名 日本精神保健社会学会

※　E-mail、FAX、郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ 氏　名		生年月日	西暦　　年　　月　　日　　歳 （　男　・　女　）
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員　を希望する	連絡先	所属・自宅　を希望する
所属名 及び住所	〒 TEL.　　FAX.　　E-mail.		
自宅住所	〒 TEL.　　FAX.　　E-mail.		
所 属 系 （○印）	社会学･文化人類学･経済学･哲学･心理学･社会福祉学･教育学･看護学・医学･保健学･栄養学･体育学･地理学 行政学･政治学･その他（　　）		
関心領域			